

深圳インターナショナルフードバレー

2021年10月21日、第2回深圳インターナショナルフードバレーフォーラムの開催とともに中国（深圳）農業食品イノベーション産業パークが設立された。

オランダフードバレー、日本のフードバレーをモデルに、深圳インターナショナルフードバレーは、「大学+」の形で、中国農業科学研究院（深圳）農業ゲノム研究所を中心に政府+研究機関+企業の三位一体で建設した。

「深圳インターナショナルフードバレー発展計画（2021～2035年）」では、3段階に分けてインターナショナルフードバレーを世界食品及び栄養分野のフロンティア技術、コア食品、新興産業の発信地として整備される。2035年に、100の大学と研究機関、研究開発力、生産規模、製造水準を有する食品企業100社を誘致し、世界一流の食品産業群、年間売上延べ1,500億元の産業パークに建設する。

現在、中粮健康栄養研究院並びに大学、企業約40社は、インターナショナルフードバレーに進出する意向がある（深圳衛星テレビ『深視新聞』、2021年10月21日）。